

## ジェットスター・ジャパンが国内線就航に向けて前進 航空運送事業の経営に関する許可を申請

- 航空運送事業の経営に関する許可(AOC)を申請
- ジェットスター・ジャパン会長に福川伸次が就任
- 各空港との協議完了後、就航地を最終決定

ジェットスター・ジャパン株式会社(以下、ジェットスター・ジャパン、代表取締役社長 鈴木みゆき、住所:東京都千代田区一ツ橋)は、本日12月21日、国土交通省航空局に対し、航空運送事業の経営に関する許可申請を行いました。

この許可が得られた場合、ジェットスター・ジャパンは東京(成田)ならびに大阪(関西)線をベースとした路線を計画しており、新千歳、福岡、那覇などの空港とも積極的な協議をしています。また、中国や韓国など短距離国際線の路線計画についても検討しています。

最終的な就航地は、低価格運賃を実現するために不可欠となる、ジェットスターのビジネスモデルに合致した空港施設の条件を満たすための計画、及び協議を完了し次第、発表します。

今回の申請により、日本のお客様に低価格運賃を提供するという目標に向けて一歩前進し、今後2012年末までに予定している国内線運航開始に向けた準備を加速してまいります。

本日、ジェットスターグループ CEO のブルース・ブキャナン、ジェットスター・ジャパン代表取締役社長の鈴木みゆき、12月1日付で新たに会長に就任した福川伸次(ふくかわ しんじ)が会見を行い、申請を発表しました。

今回会長職に就任いたしました福川は50年におよぶキャリアの大半において、旧通商産業省の要職を歴任し、現在は財団法人機械産業記念事業財団の会長を務めています。

ジェットスターグループのブルース・ブキャナンは、この経営陣が持つ豊かな経験が低料金モデルの成功に向けた強力な基盤になるとし、次のように述べています。

「ジェットスター・ジャパンは卓越した事業基盤を持つ企業になろうとしています。低料金のノウハウ、信頼されるブランド、および優れた経営陣により、日本人旅行者の皆様には素晴らしいサービスを提供します。」

ジェットスター・ジャパンの鈴木みゆきは、空港や地方自治体との協議は順調に進んでいるとし、次のように述べています。

「LCCであるジェットスターでは、平均40%~50%安い料金を提供するために、フルサービスの航空会社と比べてグランドハンドリング業務に関して、前後のドアを使用した乗降、セルフサービス・チェックイン設備、業界最短レベルのターンアラウンドタイムなど、特有のニーズがあります。現在協議中の空港には、LCCの就航による旅客増加や現地での消費拡大という利益をご理解いただいております。このようなニーズを含めて協議は順調に進んでいます。」

「8月のジェットスター・ジャパン設立の発表以来、多くの歓迎の言葉が寄せられており、特に『プライス・ビート・ギャランティー』(最低価格保証)は大きな反響を呼んでいます。これは、競争の激しい市場において最も低価格の料金を提供することへの取り組みを示したものであり、日本でナンバーワンLCCになることを目標にしています。」

プライス・ビート・ギャランティーは、予約時点で、競合他社が同一路線、同一日の同様の時間帯において



ジェットスターより安い運賃を提供している場合、それよりも 10% 下回る運賃を提供する予定です。

ジェットスター・ジャパンでは、今後 12~18 か月間に最大 100 名のパイロットの募集を予定しているほか、最大 450 名の客室乗務員職に対して 7,000 以上のプレエントリーをいただいております。

添付資料: ジェットスター・ジャパン会長 福川伸次 略歴(12 月 1 日就任)

#### <ジェットスター・ジャパン株式会社について>

ローコストキャリアのジェットスター・ジャパンは、2012 年末までに日本国内線を、2013 年中に短距離国際線の就航を予定しています。3 機の A320 型機(180 席)により運航を開始し、最初の数年間で 24 機に拡大することを計画しています。国内線の就航都市は 2012 年半ばに発表する予定です。ジェットスター・ジャパンは、カンタスグループ、日本航空株式会社、三菱商事株式会社が出資し設立した会社です。